

## 令和元年度 第1回愛知県教員の資質向上に関する協議会 概要

### 1 日時

令和元年8月1日(木) 午前10時～午前12時

### 2 場所

愛知県自治センター12階 E会議室

### 3 委員等の出欠席(敬称略)

#### 【出席】

堀尾良弘、高井次郎、小倉 斉、酒井 敏、荒川志津代、安藤直哉、恒川 渉、阿知波早百合、加藤正彦、河合龍二、伊藤 準、横井英行、小林整次、山田知子

#### 【代理出席】

野田敦敬(西淵茂男代理)、兒島 靖(水田博和代理)、白濱菜穂子(福山勇治代理)、黒田耕作(堀場文彰代理)

#### 【事務局】

総務課、教育企画課、財務施設課、教職員課、福利課、高等学校教育課、義務教育課、特別支援教育課、保健体育課、尾張教育事務所、西三河教育事務所、総合教育センター

### 4 傍聴人等

なし

### 5 挨拶

愛知県教育委員会 横井英行 次長兼管理部長が挨拶を行った。

### 6 議事概要

#### (1) 情報交換

##### ①大学における教員養成の取組について

各大学から資料1による説明後、意見交換を行った。

《意見等》

#### 【A 委員】

学生時代に、自分から希望して海外へ留学したり自主的に何かボランティアグループに入って活動をしたりしてきた教員は、教員になってからもすごく自主性や創造性がある、生徒にも影響力があり、校長としても大変有り難い。技術やテクニックは身につけていないが、そういう部分ではないところで、すごく教員としての伸びしろを感じる。そういう学生を大学の方で育てていただけると大変有り難い。

#### 【B 委員】

本校では、大学の初年次学校体験活動と、学校サポート活動の学生が来たが、二人とも非常に前向きでとても一生懸命な学生である。実際の教育実習のときには、教員がいろいろと紙面上のことをしなければならぬが、学校サポート活動に関してはそういったものが全くなく、私たち教員も助けてもらうし学ぶことが多い。学生も本当にいろいろな体験をして子どもへの対応や、学校の先生たちの悩みなどが手に取ってわかる。即戦力になる学生が新規採用のときから来ていただけるのは本当にいいことだと思って

いるので、こういった実践をどんどん進めていただけると学校現場としても有り難い。

#### 【C 委員】

教育委員会だが、大学でいろいろ単位を認めていただいて、ボランティアでも学校の方は有り難いというふうに思っているが、本市町は、学生ボランティアを平成 27 年度から始めて今年も行っているが、登録の学生数が少しずつ減ってきて、今年も減っている。これは本市町が独自に進めてきた学生ボランティアについては、コーディネーターを配置して学級と学生を取り持つことをやっているが、そういうことがない現場では、働き方改革が言われている現場で、学生がただのお客さんになってしまう可能性があるのではないかと懸念している。現場が受け入れ態勢をしっかり持っていないと、学生に来てもらった方がいいが、学校現場としてはあまり有り難くないという状況になれば、問題である。一般企業の方へ免許を取ったのに学生がそちらの方に流れていく現実がある。学校の現場に、来てもらって有り難いと認めてもらえれば、学生の意欲も増していくのではないか。

#### 【D 委員】

本学は 900 人規模で学校ボランティアをやっているので、様々な学生がおり、順次 1 年生のときに五日間、2 年生後期になって週に 1 回ずつ 13 回行って教育実習につながる。学生にとってもおおむね好評だが、中には本当に教室に入れない学生もいるし、今の学生はメンタル的にも弱い学生が多いので、子どもの一言に傷ついてしまう学生もおり、そういった学生のケアにも努めている。教育実習は、本学は県教委ともやり取りをして 7 年前から 3 週間化して 1 週間短くなっているので、スタートからすぐ子どもと接しないとなかなかレベルが上げられない。そういった意味では教育実習に繋がられるようになってきている。900 人もいると学校現場で迷惑をかけてしまうこともあるので、不適応を起こす学生を早く見つけて対応していくということを心掛けている。

#### ②市町教育委員会における教員育成の取組について

各市町から資料 2 による説明後、意見交換を行った。

《意見等》

#### 【D 委員】

先日県教育センターと本学の教員が連携する研修の打合せを行った。今正に夏休みの研修が佳境かと思うが、本学の教員も幾つかの市町に呼んでいただいて、行くと自分の研究課題が明らかになるというか、今、学校現場はこういう課題を持っていてそこを深めないといけないということで、大学教員の研さんの場にもなっている。研修講師として行きながら研修の場になっているのは大変有り難いと思っている。岡崎市の教科指導員会議に行くと本当に力を持っている方がたくさん集まっていて、その方々が市を引っ張っている。そういうシステムにはいつも関心をしている。

#### 【E 委員】

大学と市町の教育委員会の話を聞き、安心して子どもたちを学校に通わせることができると感じた。一つ思ったのが、各市町村における教育委員会の基本研修が市町で回数や内容がばらばらであると感じた。次長からの説明のとおり、県の方で基本的な研修が

行われているということで、市町村の研修は任意という認識でよかったのかなと思う。今月と先月、日本のPTAの総会が行われたが、教員不足や先生方の働き方改革についても議論が交わされた。教員不足については、先生の魅力を学生たちに伝えることで、先生になりたいという学生たちがもっともっと増えるように、協力できる事業があるのであれば是非参加したい。働き方改革については、資源回収で先生がすごく一生懸命やっていて、生徒と向き合っていると感じた。保護者としては先生たちに絶大なる信頼をおいて子どもたちを通わせているので、行ってきますと言って笑っていただいと帰ってこられる当たり前の学校生活となるように我々PTAは何でもするので、交流を深めて協力していきたいと思う。

#### 【F 委員】

各大学の教員の育て方及び市町教育委員会による教師の研修のことを初めて聞かせてもらい、個人の意見では私は教師でもないが、子どもは先生になりたいと言って興味を持っている。私自身が振り返って、私個人の人生を決めるのに先生の一言がかなりのウエイトを占めていたことを実感した。これからの教職員の先生が求められるものというのは、生徒と仲良くなる先生よりも生徒の代表若しくは生徒を引っ張れる先生が良い。先生の社会の中に生徒・児童がいるというような先生を育てて欲しい。私が感じたように、先生は自分たちが22、23年の間で自分の人生を決めてきたということをもた児童や生徒に教えて、より子どもたちに選択の幅を広げるような先生を作って欲しいと思っている。そんな先生を作ってくれるような事業を教育委員会の先生や皆様方をお願いしたい。

#### ③前回の協議会における要望等への対応状況について

事務局から資料3により説明を行った。

《意見等》

#### 【G 委員】

教員不足や採用試験については、本市町において講師でしっかりやっていたが、教員採用試験になかなか受からず、私立高校へ行ってしまった。世間を見てみると、税理士でも大学院に行ったり、実務をやったりすれば試験の一部が免除される。今の教員採用試験では、3年間やると一次試験免除となるが、例えば5年間やって実績を上げて、論文も十分だという講師に限っては、特別選考採用枠みたいなものがあると、公立の人材確保になる。私の教え子に教員免許を持つ学生がいるが、大学3年生くらいから就職先が決まってくるので、教員にはならないと言う。経団連が就職活動の解禁をなくし、この傾向がもっと進むので、教員採用試験を3年生にすべきだと思う。3年生も4年生も受けられるようにするなど、教員をやりたいという学生が採用試験を受けられる環境を作るのは、大切ではないのかと思う。ボランティアについては、学校現場からすると短期では困るので、できれば1年を通してというふうに考えると、例えば、今講師も不足しているので、教員免許を持っている大学院生なら、6時間でいいので授業を持ってもらいたい。非常勤講師として雇えば、その学生にとってもプラスになるし、いい経験でお金ももらえて皆にとって良い気がするがどうか。

### 【事務局】

最初の2点については前回も御意見をいただいております、資料3の⑤のところで整理をさせていただいた。今後も教員採用選考試験の在り方については考えていくので、その中で特別選考についても検討していく材料としたいと思っている。ただ、年度を超えての前倒しについては、公務員全体の試験の在り方に関わってくると思うので、将来的な課題として国との話をする機会があれば出していく。

### 【D 委員】

教職大学院は1年生の9月から2年の12月までは学校で実習をしなければならない。大体週2日で、免許を持っているので授業をさせていただけることになる。是非活用いただければ。単位なので、お金もいない。今は人数も少ないが、先生がお休みのところに入って、小中学校で授業をさせていただく機会も多いと聞いている。一つ前の話題で、本学も教員採用試験の取組が非常に遅いので、3年生が受けられることは本学にとってもうれしいことである。

## (2) 今後の協議事項

### 【事務局】

- ・2012年以降、受験者数は減り続けており、増加に向けた具体的な方策についてどのような形で議論するのが良いか御意見があればいただきたい。
- ・教員を希望する学生が減っていくことへの対策として、教師の魅力や教育のだいご味といったものを伝えていく企画を各大学でどのようにされているのか、情報交換・意見交換をしていけると良い。
- ・教員育成指標の着任時の姿が、ハードルが高いという意見をいただいております、指標の見直しについてもこの会議でやっていくことになっているので、それぞれの立場の中で御意見等があれば議論していきたい。